

平成29年度 まちづくり推進部 横手地域局 方針書

まちづくり推進部 横手地域局長 佐越 和之

1. 横手地域局の使命（役割）

地域の多様な資源（人、もの、歴史、文化、自然など）を活かし、「人にやさしい 住み続けたい横手」を目指してまちづくりを推進する。

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

◇横手地域局の特異性を踏まえた災害時等の本庁機関との連携による対応を明確にする

◇地域の課題を解決に向けて検討する地域住民による組織の在り方の検討を継続する。

◇安全で安心して暮らすために必要となる施設、設備の日常的な点検項目を再確認する

3. 平成29年度の『スローガン』

市民のために、市民とともに、まちづくりを進めよう

4. 年度目標となる方針（目標）

◇市民から親しまれ信頼される地域局を目指す

◇市民協働による生き活きたまちづくりを進める

◇安全で安心して住めるまちづくりを進める

5. 重点取組項目

(1)	項目	市民に信頼される地域局
	取組内容	①市を代表しているという自覚のもと、市民の立場に立った説明責任を尽くした対応に努める。 ②朝のあいさつ運動の展開（庁舎内外での「おはようございます」のあいさつ励行） 民間企業関係者や来庁者の多様化に対応した対応をする。 ③自己研鑽に励み、自信を持ってはつらつと行動し信頼される職員を目指す。
(2)	項目	市民協働による生き活きたまちづくりの推進
	取組内容	①横手地域管内各地域における実態の把握と今後の仕組みの理解の醸成に努める。 ②学習活動やコミュニティー活動を支援し、地域づくりへの市民の積極的な関わりを促進する。 ③地区会議の現状を調査し、状況に合わせた主体的な運営・活動を促す。
(3)	項目	安全・安心な住みよいまちづくりの推進
	取組内容	①交通安全、防犯、消防、防災に関する本庁部局及び関係機関と緊密に連携する。 ②横手地域局の特異性を踏まえて、発災時における地域局対応の具体を再確認する。 ③施設設備の日常点検、危険情報の早期取得により、災害や事故を未然に防止する。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

・条里南庁舎において、民間企業の入居により、庁舎利用使用人数が増加しているが、計画した改修等をほぼ終了し、良好な状態で経過している。

・市民協働関連では、横手地域局管内での地区会議を単位とする協議を2回から3回開催した。地域の現状や将来展望などで基本的な共通課題について意見交換を行っているが、地区によって基本状況（人口世帯数・過去の活動内容や都市計画による区割りの変更、小学校区の変遷等）が大きく異なるため、さらに地道な協議が必要と意見されている。

・安全安心のまちづくりでは、横手公園でのクマ出没、7月22日の大雨被害、8月のアパート火災や9月の突風被害など、不可抗力的な災害が発災しているが、可能な対応を行い最小限にとどめるとともに対応復旧を行ったと判断している。

防災訓練を通常通り実施したが、市民の防災に関する意識と知識のさらなる普及向上を、関係各課機関と進める必要がある。なお、日常の維持管理において物件の損傷事故が発生しているので安全確認等の基本的事項の再確認と意識の徹底を図る。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

・条里南庁舎は、良好な状態で業務推進できるよう維持管理を継続する。

・市民協働では、横手地域局管内での地区会議を単位とする協議を継続するとともに、地区会議担当職員による先進事例の研修を進める。

・安全安心のまちづくりでは、冬季の除雪関係に比重を傾けながら、災害復旧の予算確保など継続した対応を行っていく。同時に、市が進める市民の防災に対する意識と知識のさらなる普及向上に協働する。なお、日常の作業安全確認等の基本事項の確認と意識の徹底を図る。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

・条里南庁舎の民間企業の入居による対応は雨もり対策、空調設備機械修理など計画した改修工事等を計画どおり終了し、庁舎利用使用人数の増加に対しても、良好な状態を維持し経過している。

・地域づくり協議会は、解散にあたって横手地域独自の提言書をまとめ今後の地域づくりへの意見をまとめることができた。今後の地域づくり活動関連では、横手地域局管内での地区会議を単位とする協議を2回から3回開催し、地域の現状や将来展望などで基本的な共通課題について意見交換を行って、市の基本的な考え方を理解願っている。地区によって基本状況（総合交流促進施設の有無、人口・世帯数の多さ少なさ、過去の活動内容や都市計画による区割りの変更、小学校区の変遷等）が大きく異なるため、さらに地道な協議が必要であると意見されている。

・新しい地域づくり補助金については、事前に概略を説明することができたが、更に適切な周知が必要である。

・安全安心のまちづくりでは、横手公園でのクマ出没、7月22日の大雨被害、8月のアパート火災や9月の突風被害など、不可抗力的な災害が発災するとともに、記録的な大雪となったが、可能な対応をとり最小限にとどめるとともに対応復旧をおこなったと判断している。道路公園等の公共財の維持管理や除雪などに従事する人材の確保に今後の対策が必要な傾向が出てきている。

・防災訓練など例年の事業は予定通り実施した。一方、大雨災害等の対応から防災マップが配布された。市民の防災に関する意識と知識のさらなる普及向上を、関係各課機関とともに呼びかける必要がある。

・年間の日常の維持管理において物件の損傷事故が、複数発生してしまったので、安全確認等の基本的事項の再確認と意識の徹底を図る。

平成29年度 まちづくり推進部 増田地域局 方針書

まちづくり推進部 増田地域局長 高橋 功

1. 増田地域局の使命（役割）

「みんなの知恵を持ちよりみんなが輝くまちづくり」の具現化のため、やさしさと笑顔あふれる市民が主役の地域づくりを進めます。

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・増田地区と狙半内地区の地区交流センター化が課題です
- ・スムーズな窓口対応などが引き続き求められています
- ・多くの公共事業が予定されており、円滑な事業実施には関係部署との情報共有と市民への周知が必要です

3. 平成29年度の『スローガン』

一歩前進、歴史と伝統が息づく明るく元気な地域づくり

4. 年度目標となる方針（目標）

- ・市民が主役となる新たな地域づくりを支援します
- ・地域に密着し、市民から親しまれ信頼される地域局を目指します
- ・関係部署との情報共有と市民への周知による各種事業の円滑な推進を目指します

5. 重点取組項目

(1)	項目	市民が主役となる新たな地域づくりを支援
	取組内容	①地区交流センター等新たな地域づくりを支援し、自助・共助による元気な地域を目指します ②増田地区と狙半内地区の地区交流センター化を推進します ③地域コミュニティの活性化と地域文化の継承を図るため、引き続き三世代交流事業を支援します
(2)	項目	地域に密着し、市民から親しまれ信頼される地域局を
	取組内容	①窓口業務の迅速な対応と多様な相談業務に適切に対応できる地域局を目指します ②市民との意思疎通を円滑にし、さまざまな地域課題の解決を図れる地域局を目指します ③5S運動の取り組みを目指します
(3)	項目	関係部署との情報共有と市民への周知による円滑な事業推進
	取組内容	①関係部署等との連携を図り、事業の円滑な推進に努めます ②事業内容等を市民や関係団体へ的確に伝えます

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

- ・市民が主役となる新たな地域づくりを支援
来年度からの地区交流センターを目指し、増田と狙半内地域センターとの協議を開始。また、三世代交流事業の推進に努め、現在のところ、昨年度より1つ多い20集落で実施している
- ・地域に密着し、市民から親しまれ信頼される地域局を
2階の窓口では市民サービス課に係る全ての業務を行っているほか、1階の行政窓口でも住民票、印鑑証明、税務証明（一部分）等の交付及び温泉入浴券、針きゅうマッサージ券の交付、総合案内を行って市民に利用しやすい地域局を目指している。また、業務について情報共有を図り、担当者が不在でも来庁者に適切に対応できるようにお互いにスキルアップに努めている
- ・関係部署との情報共有と市民への周知による円滑な事業推進
増田地区街なみ環境整備事業や増田まんが美術館大規模改修事業などの推進のため、関係課と情報交換しながら関係団体や住民への事業説明会などを行い、円滑な事業推進に努めている

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

- ・市民が主役となる新たな地域づくりを支援
来年度からの地区交流センターを目指し、引き続き増田と狙半内地域センターとの協議を重ねる。また、三世代交流事業の推進に努め、より多くの集落での実施を目指す
- ・地域に密着し、市民から親しまれ信頼される地域局を
下半期も1階の行政窓口でも住民票、印鑑証明、税務証明（一部分）等の交付を行い、来庁者のサービス向上を目指す
- ・関係部署との情報共有と市民への周知による円滑な事業推進
増田地区街なみ環境整備事業や増田まんが美術館大規模改修事業などを推進するため、関係課との情報交換を密にししながら、円滑な事業推進に当たる

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

- ・市民が主役となる新たな地域づくりを支援
増田と狙半内とも地区交流センター化の準備が整い、目標どおり平成30年4月からスタートできることになった。これで、増田地域は4地区とも地区交流センターとなり、これをきっかけとして新たに地域課題の掘り出し、解決に向けて進むことが期待される
- ・地域に密着し、市民から親しまれ信頼される地域局を
申告相談期間を除いては、1階の行政窓口でも住民票、印鑑証明、税務証明（一部分）等の交付を行って、来庁者のサービス向上を目指すことができた。また、5S運動の取り組みとして職場環境の美化から着手した
- ・関係部署との情報共有と市民への周知による円滑な事業推進
増田地区街なみ環境整備事業や増田まんが美術館大規模改修事業などを推進するため、関係課との情報交換を密にししながら、円滑な事業推進に当たることができた。なお、流雪溝の取水に関しては課題が残っており、平成30年度は早めに関係機関へ要請することが必要である

平成29年度 まちづくり推進部 平鹿地域局 方針書

まちづくり推進部 平鹿地域局長 國安 清久

1. 平鹿地域局の使命（役割）

多様化する住民ニーズに的確かつ柔軟に対応できる地域の身近な行政サービスの拠点として価値を高めながら、住民満足度向上に努める。また、地域内の共助意識の高揚と仕組みづくりを促し、自立できる自治組織の確立を地域と協働していくことで、安心して暮らせる地域社会を実現していく。

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

協働のまちづくり会議において提唱する地域の支え合いの仕組みづくりの具体的な目標設定に取り組む。同時に、その基盤となる集落自治組織活動の底上げをはかり、地域全体でまちづくりの方向性を共有し連携・協働に努める。

3. 平成29年度の『スローガン』

協働のまちづくりを推進し、地域の活力と魅力を高めよう！

4. 年度目標となる方針（目標）

- 元気の出る地域づくり事業の完遂と地域の支え合いの仕組みづくりに努め、活力と魅力ある安全で安心な暮らしの実現を図る。
- 特色ある地域資源を有効活用しながら産業振興に努め地場製品のPRと販売拡大を図る。
- 地域コミュニティの活性化と健康長寿のまちづくりのため、住民交流と協働意識を醸成させ日常的な生きがい活動を促進する。

5. 重点取組項目

(1)	項目	(1)元気の出る地域づくり事業の完遂と地域の支え合いの仕組みづくりに努め、活力と魅力ある安全で安心な暮らしの実現を図る。
	取組内容	・地域づくり協議会の元気のでる地域づくり事業の円滑化を支援し、地域の活力と魅力向上を図る。
(2)	項目	(2)特色ある地域資源を有効活用しながら産業振興に努め、地場製品のPRと販売拡大を図る。
	取組内容	・平鹿特有の歴史や自然、伝統文化、食、観光、人材など価値の高い地域資源を地域共通の資産としての認識を深める。 ・地場産農産物や特産品の情報発信と受信に努め、県内外の認識度を向上させ産業振興に繋げる。
(3)	項目	(3)地域コミュニティの活性化と健康長寿のまちづくりの為、住民交流と協働意識を醸成させ日常的な生きがい活動を促進する。
	取組内容	・コミュニティ活動活性化支援と協働意識浸透を図りながら、住民交流の機会を拡大し地域における共助活動の気運を高める。 ・若い世代の健康意識を高め共有しながら健康長寿のまちづくりに取り組むため、保健活動や健康啓発・相談活動を積極的に進める。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

- (1) 元気の出る地域づくり事業は、最終年を向かえ、全ての事業の検証を図り、効率的な推進に努めている。地域の支え合い体制の具体化については、対象集落との話し合いは済ませたが、具体的な展開に苦慮している。
- (2) 地域の最大イベントである「あやめ祭り」は、昨年に引き続き地産弁当販売やJR秋田支社との連携などで事業価値を高め、情報発信、交流人口増に努めた。地域の伝統である藍染技術による「浅舞絞り」は県内外から評価が高く、問い合わせ等が増えている。浅舞絞りをさらに地域の伝統的特産品として売り込む為に講習会、展示会等を開催し、技術保存、継承と後継者育成に努めている。
- (3) 地域の連帯感、共同意識を醸成して行く為には、住民の健康が何より大切であり、高齢化が進行する社会においては必須条件である。日頃から高血圧、脳卒中对策として健康相談、健康指導をより一層強化している。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

- (1) 高齢化、人口減少が一層加速する中で地域の支え合いの仕組みづくり体制構築は喫緊の課題であり、地域事情に即した具体的な取組みが急務である。
- (2) 地域資源の情報発信や販売促進を図る必要があり、特に地場産品PR活動を行い、地元生産者の販売意欲向上により地域活性化につなげていきたい。
- (3) 中規模健康の駅により地域住民の健康意識が少しずつ向上しているが、若年層へより一層のアプローチが課題であり、いきいきサロンとの事業連携も視野に入れて、幅広い年齢層の住民参加による健康増進活動を展開し、健康長寿意識拡大を図っていきたい。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

- (1) 地域づくり協議会の元気の出る地域づくり事業は円滑化が出来たと思えるし、地域づくり計画の確実な実践には寄与出来たが、地域住民と共助意識のさらなる醸成に関しては進展がない状況下にいるので、来年度は地域住民の共助意識醸成と集落組織体制強化に努める必要がある。
- (2) 元気の出る地域づくり事業の中で農産品に限らず地場産品など特色ある地域資源の情報発信や販売促進の効果的な後押しは、これからも地域の魅力、活力の向上の為に必要不可欠な事業である。
- (3) 健康長寿のまちづくりの為、中規模健康の駅事業は地域住民の健康意識向上の為に十分に機能しているが、65歳以下の参加者拡大が必要であり来年度の課題といえる。

平成29年度 まちづくり推進部 雄物川地域局 方針書

まちづくり推進部 雄物川地域局長 高橋 宣之

1. 雄物川地域局の使命（役割）

・多様化する住民のニーズに応えるように、「理解・対応・信頼」される地域行政の拠点を目指す。

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・若手リーダーを育成し、住民が活力を得られる地域コミュニティを形成する。
- ・五つの地区交流センターが主体となって、各地域が自立した魅力ある自治活動に取り組む。
- ・認知症による徘徊者に対し、地域で見守る環境づくりに取り組む。

3. 平成29年度の『スローガン』

職員も地域の一員。地域市民と一緒に考え、一緒に行動しよう。

4. 年度目標となる方針（目標）

1. 市民参画による地域づくり。
2. 地域が元気になれる地域づくり。
3. 市民による共助意識の醸成。

5. 重点取組項目

(1)	項目	「地域おこし、人づくり」の取り組み
	取組内容	・行政主導から、市民と協働によるまちづくり ・地域若手リーダーの発掘と自主性の育成 ・地域資源の有効活用
(2)	項目	地区交流センターの自主的な地域課題への取り組み
	取組内容	・独自性のある事業推進による、地域に身近な交流センターへの位置付け ・地域の実情に応じた安全安心、健康福祉活動の推進 ・地区交流センターを核とした徘徊見守り訓練、防災訓練等の実施により、共助・防災意識の醸成を図る
(3)	項目	
	取組内容	

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況 【現状】

「地域おこし、人づくりの取組」

- ・地域を担う若手リーダーの育成に成果のあった「さくら祭り」「おもフェス」は高校生の協力や幼児の参加があってより地域に密着したイベントになった。定着できるように支援が必要と感じている。
- ・地元特産品のスイカを使ったスイカのアイスに地元高校生が一昨年より取組み、アイデアを出して県の家庭クラブ大会で最優秀賞を受賞し、12月の東北大会で発表する機会を得た。

「地区交流センターの取組」

- ・旧小学校区を単位として5地区の交流センターが2年間の試行期間を経て、4月にスタートした。各地区ともセンター便りを例月的に発行し、特色を出して活動をしている。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

「地域おこし、人づくりの取組」

- ・元気の出る地域づくり事業は最終年度を向かえたが、事業を検証してより効果的に推進していく。事業の実践により、地域に根差した支え合いの仕組み、地元高校生のボランティア活動の推進や若手リーダーの育成につながり、教えることで学び合ってきた。地域個性と地域資源を活かした活動につなげていく。

「地区交流センターの取組」

- ・交流センター事務局のスキルアップを図る事務局体制の強化と他の団体との連携を図り、地域に親しまれる活動への取組みや共助意識・防災意識の向上を目指した取組みを進めていく。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

「地域おこし、人づくり」の取組み

- ・地元の高校生ボランティアの参加協力により、学校と地域社会の連携による地域と密着したイベントになった感がある。また、若い方々が積極的に運営を心掛け、自主性が育ったリーダー育成のきっかけとなるイベントになった。
- ・雄物川高校の地域を活性化したいという思いが「すいかソフトクリーム」の販売へとつながり、イベント等にぎわいを見せた。こうした活動が評価され、学校家庭クラブ東北大会への出場となり、地域局で激励会を催した。高校生が頑張っている姿が地域のイベントへの出場など地域との輪を広めるきっかけとなっている。

「地区交流センター」の取組み

- ・交流センター長を中心として、それぞれの地域で個性のある事業展開が行われるようになった。
- ・交流センター報は地域の身近な話題が掲載され、地域の方々が興味をもって見ていただいている。今後5交流センターが合同の情報交換をおこなって、地区会議と連携した取組みにより新たな地域づくりの拠点となるように支援していく。

平成29年度 まちづくり推進部 大森地域局 方針書

まちづくり推進部 大森地域局長 長谷山 達夫

1. 大森地域局の使命（役割）

多様な地域資源を活用し、地域住民との協働により「人、心、ふれあう郷土（まち） おおもり」を目指して、「人にやさしく、特色ある地域づくり」を推進します。

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

- (1) 地域に活力を創出する新たな地域づくりへの取り組みが必要。
- (2) 若者の参画により新たな視点からの取り組みが芽生えてきたので、今年度は更なる充実に取り組む必要がある。
- (3) 高齢者や子ども達の見守り体制の充実のためには、より身近なところからの見守り支援が必要となってきた。⇒『おおもり支えあい協議体』や『大森地域子育て支援ネットワーク委員会』活動等の充実

3. 平成29年度の『スローガン』

地域の思いや声を正面から受け止め、
信頼される地域局になろう！

4. 年度目標となる方針（目標）

- ①笑顔があふれる活力ある地域づくり
- ②安心・安全な地域づくり

5. 重点取組項目

(1)	項目	地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進
	取組内容	①地域資源である『大森リゾート村』の魅力アップのため、地域の声を反映させながらテニスコートの拡充事業等へ、市民の皆様と共に取り組みを行う。 ②『大森リゾート村』の核施設であり、かつ、地域の貴重な財産である『さくら荘』の継続的な安定経営に向けて、市民の皆様と共に取り組む。 ③若者を中心とした自主的活動を積極的に支援し、活力ある地域づくりを目指す。
(2)	項目	市民協働による地域見守りネットワークの構築
	取組内容	①『おおもり支えあい協議体』や『大森地域子育て支援ネットワーク委員会』、『地区交流センター』等との連携を強化し、安全で安心して暮らすことのできる地域づくりを目指す。
(3)	項目	明るく元気なあいさつの励行
	取組内容	①笑顔の対応が市民サービスの基本との認識をしっかりと共有し、市民の皆様にも親しまれ、頼られる地域局を目指す。 ⇒まずは職員間も含め、『明るく元気なあいさつ』が基本

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

(1) 地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進

①『大森リゾート村』魅力アップのためのテニスコートの拡充事業等への取組みに関しては、9月議会において体育協会や地区会議等の関係団体から「大森リゾート村改修に関する陳情書」が提出され、採択された。

②『大森リゾート村』の核施設である『さくら荘』の安定経営については、4月末では僅かずつではあったが過去2年間に比してプラスの売上を計上していたが、その後、民間譲渡問題の影響もあり5月当初に調理員1名が退職した事も影響し、施設内のレストランが営業できなくなったり、7月の大雨災害によると思われる売上高の減少や土砂災害により一時コテージの営業が出来なくなったりと言うマイナス要因が多発し、8月末現在の対前年同月比売上高は約1,170万円のマイナスとなっている。ただし、経費の削減等、経営努力により営業収支に関しては対前年同月比で約280万円のマイナスに抑える事が出来ている。

③若者を中心とした自主的活動の支援に関しては、大雨災害等への対応のため、今年度はまだ具体的な取組みが出来ていない。

(2) 市民協働による地域見守りネットワークの構築

①『おおもり支えあい協議体』に関してはこれまで4回開催するとともに、5月には大森地域における課題等に関する全戸対象のアンケートを実施し、取りまとめ概要について地区ごとに報告を行っている。また、『子育て支援ネットワーク委員会』もこれまで2回開催し、問題を抱える世帯の情報を関係者で共有するとともに、個別ケースについては、直接かかわりのある担当でケース検討会も実施している。

なお、7月の大雨災害に際しては各公民館(地区交流センター)等を避難所とし、各地区の消防団や民生委員、また、既に組織化されている保呂羽自治会や大町自主防災組織の皆さんに避難誘導や避難所運営にご尽力いただき、大きな被害はあったものの、最悪の人的被害は避けられた。

(3) 明るく元気なあいさつの励行

①コミュニケーションの基本はあいさつと位置づけ、昨年度に引き続きあいさつの励行を行っている。

7月の大雨災害に際しては、混乱した状況の中で十分な対応が出来ない場面もあったが、基本的には来庁者に対する声掛けや対応については出来ており、大きなクレーム等は受けていない。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

※当初設定した目標ではないが、まずは大雨災害の復旧を最優先課題とし、本庁関係部署と連携し、取り組んでいかなければならない。

(1) 地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進

①地域等が一体となった取組みにより陳情が採択されたため、今後は地域局として具体的な取組みについて検討を行わなければならない。

②さくら荘の経営環境には、民間譲渡問題等による風評被害もあるなど非常に厳しいものがあるが、可能な限り早期に今後の方針を決定いただき、地域利用者の皆様と共に利用促進について取り組んでいかなければならない。

③昨年度は、若者農業従事者等による情報共有のための会が好評であったので、今年度も是非実施したい。

(2) 市民協働による地域見守りネットワークの構築

①7月の大雨災害を経験し、地域の皆さんも自主防災組織の必要性を感じている状況にあるので、これをきっかけとし、地域全体としての取組みはもちろん必要であるが、まずは一つでも多くの自主防災組織が出来よう、取り組んでいかなければならない。

(3) 明るく元気なあいさつの励行

①引き続きあいさつの励行を行い、利用者の皆様及び職員間の良好なコミュニケーションの下で親しまれ、信頼される地域局を目指す。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

(1) 地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進

①大森リゾート村改修計画については、9月議会での陳情採択後、テニス関係団体等を中心にアンケートの実施や意見交換を行ってきたが、今後は他のスポーツ施設利用者やさくら荘利用者等の意見や要望等を聴取し、大森リゾート村全体としての改修計画を提案し、横手市スポーツ推進計画等、関連計画への搭載を目指していかなければならない。

②さくら荘の経営状況については、昨年大雨災害の影響のほか、民間譲渡問題に関連する風評被害等も影響し、厳しい状況が続いている。昨年4月には過去2年間の売り上げ実績を上回ったものの、その後は調理師の退職や大雨災害の影響等により減少傾向が続き、9月は前年実績を、また、12月には前々年実績を上回った以外は、売上は低迷している。しかし、まだ正式な集計は出ていないが、今年に入ってからの2月3月については前年実績を上回ることが見込まれている。厳しい経営環境ではあるが、地域の方々と共に利用促進を図り、経営の安定化に努めなければならない。

③昨年度開催した若者農業従事者等による情報共有のための会については、昨年大雨災害対応等により今年度は開催できないうまくない。今後の地域農業活性化に大きな効果が期待されることから、是非来年度は開催しなければならない。

(2) 市民協働による地域見守りネットワークの構築

① 保呂羽地区の地区会議と地区交流センター、共助組織の一体化に加え、大森地区と川西地区においても地区会議と地区交流センターの一体化が進んでいる。今後は白山地区においても両組織の一体化に取り組んでいかなければならない。

また、昨年7月の大雨災害に際しては地区会議、地区交流センターに加え、大森地区においては自主防災組織も有効に機能したことから、各地区においても自主防災組織又は共助組織を組織し、地区会議、地区交流センターと一体になった組織により安心安全な地域づくりに取り組んでいかなければならない。

(3) 明るく元気なあいさつの励行

① 今後も引き続き明るく元気なあいさつの励行により、市民の皆様に親しまれる地域局づくりに取り組まなければならぬ。

※大雨災害復旧事業について

未曾有の大雨災害により、大森地域局管内にはその爪痕がまだ広範囲に残っている。今年度は応急的な復旧作業に努めてきたが、次年度においては地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら本格復旧に取り組んでいかなければならない。

平成29年度 まちづくり推進部 十文字地域局 方針書

まちづくり推進部 十文字地域局長 高橋 栄逸

1. 十文字地域局の使命（役割）

市民に親しまれ信頼される身近な地域局

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・ 十文字庁舎建設と庁舎周辺エリアの総合的な利活用の検討
- ・ 十文字地区および三重地区の地域センター化へ向けた検討

3. 平成29年度の『スローガン』

市民目線で考えチームで取り組む元気な地域づくり

4. 年度目標となる方針（目標）

1. 市民が気軽に訪れやすい地域局
2. 庁舎建設事業の推進
3. 安全安心、元気な地域づくり

5. 重点取組項目

(1)	項目	市民が気軽に訪れやすい地域局
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 笑顔で明るい挨拶の励行・ 市民の立場に立った思いやりの丁寧な接遇・ 課・係を越えた情報共有と積極的な自己啓発による資質の向上
(2)	項目	庁舎建設事業の推進
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 道の駅との連携、消防分署・小学校移転跡地の利活用、幸福会館・BG等、庁舎周辺エリアの全体構想の検討
(3)	項目	安全安心、元気な地域づくり
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 十文字西地区交流センターの地域課題取り組みへの支援・ 十文字・三重地区の地区交流センター化に向けた地域との協議検討・ 安全安心な地域を支える、地域共助の仕組みづくりの検討

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

1. 市民が気軽に訪れやすい地域局

地域課、市民サービス課が庁舎の左右に分かれており、来庁者が目的の課に簡単に行けるよう正面入り口の各課案内板の改善と業務内容の追記を図るとともに、職員が来庁者を思いやる丁寧な対応も浸透してきている。

毎週開催される地域局課長会議と課内の打合せの励行による情報共有や研修受講等の自己啓発により、それぞれの職員の意識も向上している。

2. 庁舎建設事業の推進

小学校移転後の跡地の活用を含め、現在の庁舎から道の駅までのエリア全体の構想を検討し、その中で新しい庁舎の位置や機能を定めることを庁内各課と連携しながら進めているが、内容の決定までに至っていない。

3. 安全安心、元気な地域づくり

西地区交流センターが2年の試行期間を経て今年度から本格的に活動を開始したが、運営全般に渡りアドバイスと支援を行うことにより順調に事業展開が図られている。

十文字・三重の地区交流センター化、地域共助の仕組みづくりに向け模索している状況。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

1. 市民が気軽に訪れやすい地域局

引き続き市民の立場に立った思いやりの丁寧な接遇と、自己啓発による職員の資質の向上を促していく。

2. 庁舎建設事業の推進

議会の「公共施設の在り方に関する調査特別委員会報告書」をふまえ、関係部局と連携して庁舎周辺エリア全体の構想の中で、庁舎機能と建設位置の決定を目指す。

3. 安全安心、元気な地域づくり

引き続き西地区交流センターの運営を支援しながら、課題・問題の解決を図る。

今後の地域づくりの方向性を探りながら十文字・三重の地区交流センター化に向けた検討を進めるとともに、降雪期の雪処理の状況などの実態把握を行い、地域共助の仕組みづくりを進める必要がある。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

1. 来庁者が理解しやすいように正面入り口の案内板を分かり易く改善し、業務内容も追記したことにより、庁舎の左右に分かれている各課への案内がスムーズに行えた。

職員に来庁者を思いやる丁寧な対応が浸透してきており、市民の皆さんの満足度の高い窓口対応ができています。

2. 庁舎建設事業の推進

エリア全体構想と庁舎機能など経営企画課と分担しながら進め、生涯学習機能と庁舎機能の複合施設案の設計費予算化まで進捗したが、エリア全体構想の説明が必要。

3. 安全安心、元気な地域づくり

西地区交流センターの運営支援は、円滑な事業展開に結びついているため引き続き支援を継続し定着させたい。

地域共助の仕組みづくりのため冬期間の雪処理の状況調査を行い実態把握できたが、小規模な組織の連携等について引き続き取り組む必要がある。

十文字・三重の地区交流センター化への取り組みについては、地域特性に応じた検討を粘り強く進める必要がある。

平成29年度 まちづくり推進部 山内地域局 方針書

まちづくり推進部 山内地域局長 _____ 中村 広幸

1. 山内地域局の使命（役割）

市民にとって最も身近な行政窓口として、市民が行きやすく気軽になんでも相談できる地域局であること

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

- ①窓口でお客様の不満が数件あったことから、引き続き職員の接遇マナーと資質の向上を図る
- ②「いぶりがっこ」等の販売・生産増加が図られなかったことから、山内ブランドの普及拡大を図る
- ③共助組織の自主財源確保が課題となっていることから、できる事業を委託して地域づくりを推進する

3. 平成29年度の『スローガン』

お客様が「行きやすい、電話しやすい」地域局にしよう。

4. 年度目標となる方針（目標）

- ①市民が地域局に気軽に来やすい、風通しの良い組織風土を作る。
- ②山内ブランドや自然を活かし、元気な地域づくりを推進する。
- ③新たな地域課題に取り組み、安全安心な住みよいまちづくりを目指す。

5. 重点取組項目

(1)	項目	職員の接遇マナーと資質向上
	取組内容	①全職員が総合窓口担当の心構えで市民対応する (お客様が来たら、下を向いて知らないふりをしない) ②接遇マナーを課内会議やコンプライアンス会議等で繰り返し確認し合う ③研修やOJT等を通じて、職員資質の向上に努める
(2)	項目	山内ブランドや自然を活かした情報発信と普及拡大
	取組内容	①山内ブランドをイベント等により機会あるごとPRして、知名度アップを図る ②山内ブランド生産者の確保と生産拡大に努める ③山内ブランドや自然を通じて、地域の活性化を図る
(3)	項目	新たな地域課題に取り組み、安全安心な住みよい地域づくりの推進
	取組内容	①新たな「地区会議」について、エリア、役員構成等を含めた協議、検討を行う ②「さんない地域局通信」や防災無線等を活用し、情報提供とリアルタイム情報の発信に努める ③自治会、共助組織の支援のほか、各組織の自主財源の確保について検討を行う

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

(1) 職員の接遇マナーと資質向上:

週一回の課長係長会議で繰り返し窓口対応や声掛けについて確認して、各課でも毎週の課内会議で確認している。また、クレームや怒ったお客様がいた場合は、そのリカバリーをしっかりとすることを指示して、担当者、係長、課長に検証させ、繰り返さないように対処の仕方を課全体で確認、共有している。

(2) 山内ブランドや自然を活かした情報発信と普及拡大:

山内3大ブランドについては、それぞれに作付等の講習会や目揃い会などを開催して、生産技術の向上を図っている。

「いものこまつり」が約32,000人と大盛況に終わることができ、また、「いものこ品評会」も一昨年ぶりに開催でき、テレビで放映されている。その他、テレビ・ラジオによる「いものこ汁」の情報発信や県境イベントで「いものこ汁」の発売をするなどPRしてきた。

しかし、夏の低温により、「山内いものこ」の粒が小さく、1株あたり収量が少なく、生産・販売量が心配であり、その実績については下半期の集約となる。

(3) 新たな地域づくりに取り組み、安心安全な住みよい地域づくりの推進:

13区長会議を2回開催して、自主防災訓練などの活動を推進している。

7月22日の大雨災害については、大松川地区で3世帯4人を迅速に自主避難させており、その後、被災個所の確認、応急復旧工事など迅速に対処しており、農地・農業施設(水路)の国の補助災害採択や市単独事業について、受益者の理解を得て復旧に取り組んでいる。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

(1) 職員の資質の向上:

引き続き来庁者への積極的な声掛けを行うとともに、特に研修未受講者に対しては積極的に受講を促し、全職員が市民に対して分かりやすい説明ができるように、資質の向上を図っていきます。

(2) 山内ブランドや自然を活かした情報発信と普及拡大:

下期の中心は「いぶりがっこ」であることから、燻小屋、いぶりんピックや「金樽」などのピーアールを有効にして、販売向上を図り、包装などの研修会を開催し、付加価値を向上させ所得の向上を図ります。

(3) 新たな地域課題に取り組み、安全安心な住みよい地域づくりの推進:

新たな地域づくり組織の方向性について、市の方針が決定していない中であって、協議しづらい状況にある。「地区会議」「地区交流センター化」など、13区の区長をはじめ関係者と今後の地域づくりのあり方を検討していきます。

また、地域局通信や防災無線による情報提供を引き続き、リアルタイムに継続的に発信し続けます。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

(1) 職員の接遇マナーと資質向上:

庁舎内で来庁者からのクレームは多少あったが、その場で解決し納得頂いており、そのクレーム対応は上手にできていたと思う。

ただし、今冬が大雪であったことから、除雪のクレームが多数あった。市長へのメールが1件、苦情お手紙が1件あり、特に現場でのお客様対応が課題であり、上手にできるように対応力の向上を図りたい。

(2) 山内ブランドの情報発信と普及拡大:

「いぶりがっこ」はいぶりんピックや女優の佐々木希さんの取材等のテレビ報道により、県内外へ情報発信でき、山内人參もドレッシングの商品化ができて、山内ブランドの情報発信はできたと思う。

やはり課題は、需要があるにも関わらず生産農家が減少して生産量が伸びないことであるので、生産拡大対策を講じていきたい。

(3) 安全安心な住みよい地域づくりの推進:

13区の区長会議を中心に「地区会議」「地区交流センター化」などの新たな地域づくりや、芝桜の協働除草の検討をしている。また、今年度は、熊の出没が多かったが、防災無線を活用して的確に情報提供はできたと思う。大雨災害や大雪など、より一層のリアルタイムな情報提供に努めたい。

平成29年度 まちづくり推進部 大雄地域局 方針書

まちづくり推進部 大雄地域局長 戸田勝己

1. 大雄地域局の使命（役割）

市の将来像である「みんなの力で 未来を拓く 人と地域が燦くまち よこて」の具現化を担当業務を通じて市民にお知らせするとともに、常に市民に寄り添い安心し満足のいくサービスを提供します。

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

- ①平成30年度から実施される「新たな地域づくり制度」、「地区交流センター化」に向けての環境整備が課題となっています。
- ②市民から信頼されるサービスの提供に向けて、職員の接遇やスキルアップを一層向上させる必要があります。
- ③ゆとりおん大雄の経営安定化に向け、地域への情報発信や経営改善が急務となっています。

3. 平成29年度の『スローガン』

「全ては市民のために」 持てる力を全力で注ごう

4. 年度目標となる方針（目標）

- ①市民から信頼され、満足されるサービスを提供します。
- ②新しい地域づくり制度、地区交流センター化に向けた環境整備を進めます。
- ③公共温泉施設再編計画を見据え、ゆとりおん大雄の利用促進を図ります。

5. 重点取組項目

(1)	項目	市民から信頼され、満足されるサービスを提供
	取組内容	①お客様に親しみを持っていただけるよう、積極的な「あいさつ」、「声掛け」を行います。 ②職員個々がスキルアップのための目標を持ち、それに向かって積極的に取り組みます。 ③昨年に引き続き、地域事情を理解するための管内視察や能力向上のための取組みを実施します。
(2)	項目	新しい地域づくり制度、地区交流センター化に向けた環境整備
	取組内容	①これまでの元気の出る地域づくり事業の成果を検証し、これからの地域づくりの方向性を市民とともに話し合います。 ②公民館の地区交流センター化に向け、地域の理解を深めていただく取組みを進めます。
(3)	項目	ゆとりおん大雄の経営安定化
	取組内容	①更なる利用促進を図るためのPRを積極的に行うとともに、「お客様アンケート」を実施しサービス内容の改善を行います。 ②お客様に気持ち良くご利用いただくために、施設管理の徹底と職員の接遇マナーの向上に努めます。 ③毎月「経営会議」を行い、経営状況を施設・地域局で共有しながら経営安定化を目指します。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

(1)市民から信頼され、満足されるサービスの提供

- ・窓口等に来庁されたお客様に積極的にあいさつ、声掛けを励行しており、特に大きなトラブルもありません。
- ・職員一人ひとりが積極的に研修に参加し、8割の職員が受講しています。
- ・管内視察、メンタルヘルス研修をそれぞれ2回開催し、地域事情の理解やメンタルヘルスの重要性を再認識する機会となりました。（参加者数：管内視察9名、メンタルヘルス研修60名）

(2)新しい地域づくり制度、地区交流センター化に向けた環境整備

- ・8月に地域内32会場で開催した集落座談会で地区交流センター化に向けた必要性等を説明してありますが、浸透度は今一步の感があります。また、今後の地域づくりの方向性が定まっていないため、市民との話し合いはできていません。

(3)ゆとりおん大雄の経営安定化

- ・温泉部門は前年度と同程度の入込客数、売上げとなっていますが、料飲部門は、法要関係の売上げ減により、前年度に比較して大きく減（8月末現在700万円の減）となっています。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

(1)市民から信頼され、満足されるサービスの提供

- ・お客様から声をかけられる前にこちらからの声かけを励行し、親切な行政サービスの提供に努めるとともに、職員自ら資質向上を目指して、研修等への参加を促します。

(2)新しい地域づくり制度、地区交流センター化に向けた環境整備

- ・地域づくりの方向性が定まり次第話し合いを行うほか、地区交流センター化に向けた先進地視察を実施し制度の理解を促し、センター化に向け大まかなスケジュールを協議します。

(3)ゆとりおん大雄の経営安定化

- ・料飲部門の落ち込みが激しいことから、今後の宴会利用者増に向け営業活動を強化します。また、再編方針が未確定ですが、今後、方針に沿った施設の運営方針を策定する必要があります。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

(1)市民から信頼され、満足されるサービスの提供

- ・お客様に積極的にお声掛けをするとともに、窓口ではわかりやすい説明に努めました。また、職員の多くが自ら積極的に研修に参加し、スキルアップを図りました。今後も、多様化する市民サービスに的確に対応するため、職員の資質向上、連携を強化していく必要があります。

(2)新しい地域づく制度、地区交流センター化に向けた環境整備

- ・新しい地域づくり制度については、市民が積極的に地域づくりに取り組むことができるよう、情報発信、的確なアドバイスを行う必要があります。また、地区交流センター化については、地域づくり協議会委員、地区会議、体育協会、生涯学習関係者を対象に先進の地区交流センターを2か所視察していただきました。しかし、市民レベルでは制度の浸透、理解が進んでいません。今後も積極的な説明を行い地区交流センター化への気運を盛り上げ、平成32年度を目標に取り組んでいきます。

(3)ゆとりおん大雄の経営安定化

- ・公共温泉施設の民間譲渡がかなわなかったことから、今後も市営温泉施設として経営の安定化を目指すとともに、市民から愛される施設づくりを目指します。
- ・また、施設の老朽化が目立つことから、日常の点検を強化し、小さな傷のうちに修繕を行い、お客様の利用に支障のないよう取り組んでいきます。